教育研究業績書

2025年05月07日

所属： スポーツマネジメント学科　　資格： 准教授　　氏名： 五藤　佳奈

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ心理学	運動学習，認知，シミュレーション，観察
学位	最終学歴
博士(体育学)，修士(体育学)	鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 総合トレーニング運動科学系 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.担任（2021年～）新健１D	2021年4月1日～現在	1年生担任として「初期演習Ⅰ」を担当している．入学直後よりmwu.jpでclassroomを利用し，連絡系統を整備すると同時に非常時の緊急連絡網の整備を行った．これにより学生にきめ細かいフォローが可能となる．
2.体操の授業方法	2020年4月1日～現在	感染症対策として，オンライン授業と対面授業を併用して授業を展開している．体操はすべての運動の基本的な動きづくりに繋がるため，実技動画をclassroomに配信することで，学生の学習機会を増やし，技能の習得を促している． ※体操の授業は2016年度より開講している
3.保健体育科指導法（体つくり運動）の授業方法	2020年4月1日～現在	感染症対策として，オンライン授業と対面授業を併用して授業を展開している．指導案のフォーマットを電子ファイルにて配信すると同時に，過去の指導動画を配信し，授業展開のイメージがつきやすいように工夫した．また，体つくり運動を教材とした指導案を作成する際の注意事項などをまとめた資料を作成して配布した．これらは授業内およびその後の教育実習のための予習・復習用の資料とした． ※2016～2020年度は保健体育科指導法Ⅸ（体つくり運動）として開講
4.担任（2019・2020年度）短健１B・短健２B	2019年10月1日～2021年3月31日	担任としてクラスの学生との連携を取り，クラスをまとめるよう努力した． 具体的には幹事を中心に連絡を取り合いながら，クラス運営を行った． （育児休暇取得期間：～2019年9月30日）
5.卒業研究の授業	2017年4月1日～現在	卒業研究を作成するための予備資料として，文章の書き方や論文のつくり方などを分かりやすく説明する資料を作成した．
6.担任（2016・2017年度）短健１B・短健２B	2016年4月1日～2018年3月31日	担任としてクラスの学生との連携を取り，クラスをまとめるよう努力した． 具体的には幹事を中心に連絡を取り合いながら，クラス運営を行った．
7.心理学実験室内実験機器の使用方法説明書作成	2007年4月1日～現在	心理学実験室内にある実験機器の簡易取扱い説明書を作成し，学生が機器を使いやすいように工夫をした．
8.心理学実験室内心理検査の使用方法説明書作成	2007年4月1日～現在	心理学実験室内にある心理検査の簡易取扱い説明書を作成し，学生が心理検査を使いやすいように工夫をした．
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.2020年度高大連携授業（出張講義）	2021年2月	附属高等学校との連携授業を担当した．授業タイトルは「スポーツ選手を医・科学サポートチームで支える」である．健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために専門分野の特性を話し、知識を深めることを目的とする。トピックとしては、オリンピック競技大会においてこれまでどのような医・科学サポートがされているのかの話題を提供した．
2.2016年度体育会フレッシュマンキャンプ　講師	2016年7月	主催　大阪工業大学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3.平成27年度尼崎市立学校体育実技指導研修会（体つくり運動）	2016年1月	スポーツメンタル講演会 ラジオ体操第１の指導法 ～ラジオ体操の歴史・運動効果の理解、体操の実践及び指導法の習得～
4.関西学生体操連盟主催審判講習会(武庫川女子大学)	2013年3月	関西学生体操連盟に登録している学生や指導者を対象にして審判講習会を行った.
5.兵庫県体操競技審判講習会　講師	2009年～現在	国際体操連盟から通達される採点規則に基づき，年に1度，県内の資格取得者または受験者に対し女子体操競技における国内の採点指針を通達する研修会を行っている．この研修会の講師をするために，事前に行われる全国代表審判員研修会に兵庫県の審判員代表として出席し，国内外の最新情報を勉強し，研修会を行っている.
4 その他		
1.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2021年4月～現在	担当科目：初期演習Ⅰ・Ⅱ
2.武庫川女子大学短期大学部　健康・スポーツ学科	2019年10月～現在	担当科目：キッズ体操指導法
3.武庫川女子大学短期大学部　健康・スポーツ学科	2017年4月～現在	担当科目：健康・スポーツ実践研究
4.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2017年4月～現在	担当科目：卒業論文
5.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2017年4月～現在	担当科目：保健体育科指導法Ⅸ（体つくり運動）
6.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2016年9月～2018年3月	担当科目：健康・スポーツ科学の統計学演習
7.武庫川女子大学短期大学部　健康・スポーツ学科	2016年4月～2020年3月	担当科目：初期演習Ⅰ・Ⅱ
8.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2016年4月～2018年3月	担当科目：健康科学Ⅱ
9.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2016年4月～現在	担当科目：健康・スポーツ科学演習
10.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科　　同短期大学部　健康・スポーツ学科	2016年4月～現在	担当科目：体操
11.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科　　同短期大学部　健康・スポーツ学科	2016年4月～2018年7月	担当科目：スポーツ指導論
12.武庫川女子大学　体操部　副部長	2015年5月～現在	武庫川女子大学体操部において，H27年5月から副部長として活動している．部長，監督，コーチと共に体操部のサポートを行っている.
13.武庫川女子大学　体操部　帯同審判員	2011年～現在	武庫川女子大学体操部において，H23年11月から帯同審判員として活動している．採点規則に従い，選手の演技を評価している．また，採点することで選手の競技力向上に繋がるように，審判員の目線から体操部の学生の育成・指導に貢献している.

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.キッズコーチ検定１級	2019年7月～現在	
2.スポーツメンタルトレーニング指導士	2019年4月～現在	
3.日本体操協会公認一種審判員　カテゴリーⅠ	2017年4月～現在	
4.財団法人全日本スキー連盟級別テスト1級	2012年1月～現在	
5.国際体操連盟公認国際審判員(Category 3)	2009年3月～現在	
6.公益社団法人日本職業スキー教師協会　ステージⅠ	2008年3月～現在	
7.認定スポーツカウンセラー3級	2007年3月～現在	
8.日本体操協会公認体操コーチ	2007年3月～現在	
9.中学・高等学校教諭専修免許状(保健体育)	2007年3月～現在	
10.日本体操協会公認一種審判員	2006年3月～現在	
11.健康運動実践指導者	2006年3月～現在	
12.スポーツプログラマー	2006年3月～現在	
13.中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)	2005年3月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
14.国際スキー技術検定　セミゴールド	2004年2月～現在	
2 特許等		
1.移動物追跡装置	2019年	株式会社関西総合情報研究所 関西大学社会空間情報科学研究センター・社会基盤WG （研究代表者　田中成典）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.2021世界体操選手権北九州大会	2021年10月18日～10月24日	国際審判員として参加（予定）
2.第32回オリンピック東京大会	2021年7月24日～8月3日	国際審判員として参加（UB Time）
3.全日本体操競技団体選手権大会	2015年11月～	審判員として参加
4.全日本ジュニア体操競技選手権大会(選手権1部)	2014年8月～	審判員として参加
5.Pacific Rim 2014 Gymnastics Championships in Canada	2014年4月	国際審判員として参加
6.全国体操小学生大会	2014年3月・2015年3月	審判員として参加
7.全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会	2013年11月	審判員として参加
8.国民体育大会	2013年10月～	審判員として参加　（2013年は上級審判員として参加）
9.6th East Games Gymnastics Competition in China	2013年10月	国際審判員として参加
10.全国高等学校総合体育大会体操競技大会	2013年7月～	審判員として参加
11.全日本種目別選手権大会	2013年6月～	審判員として参加
12.体操天皇杯　全日本体操個人総合選手権大会	2013年4月～	審判員として参加（日本代表選考会）
13.全日本ジュニア体操競技選手権大会(選手権2部)	2012年8月～	審判員として参加
14.NHK杯	2012年5月～	審判員として参加（日本代表決定競技会）
15.Toyota International Competition	2011年12月	国際審判員として参加
16.International Junior Gymnastics Competition	2011年9月	国際審判員として参加
17.全国中学校体操競技選手権大会	2011年8月～	審判員として参加
18.全国高等学校体操競技選抜大会	2009年3月～	審判員として参加
19.全日本学生体操競技選手権大会	2007年8月～	審判員として参加
4 その他		
1.広報委員（学科ホームページ）	2021年4月～現在	
2.スポーツセンター委員	2020年4月～現在	
3.学生委員	2018年4月～2021年3月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.『採点規則　体操競技　女子　2013年版　ヘルプデスク』	共	2014年3月31日	公益財団法人　日本体操協会	岡崎美穂・岡野由美・吉村佳子・室畑吉見・鈴木舞・岡田牧子・加藤由美・川口美嘉・黒須真希・監物若菜・五藤佳奈・山口直子
2 学位論文				
1.光点表示を用いた視覚情報の制限による体操競技者の技認知の解明	単	2015年3月	鹿屋体育大学大学院　博士論文	体操競技といった極めてクローズドスキルの要素が高い競技種目を用いることによって，少ない情報量においても運動を認知できる熟練者の特徴に焦点を当て，熟練者はなぜ少ない情報量においても運動を認知することができるのかという問いに対して検討した．その結果，熟練者は2ポイントでも運動が認知できた要因として，自らが運動を経験してきたことによる筋感覚や運動のリズムが筋感覚的運動イメージとして利用できたため，高い運動野の興奮性を示した．また，熟練者は自己が遂行するための筋感覚的運動イメージを有しており，判断の基となる情報の手がかりが多く内在しているため，技の正確性が高まることが示唆された．
2.Point-light Displaysによる運動の認知	単	2007年3月	鹿屋体育大学大学院　修士論文	本研究の目的は，点光源の数を操作することで知覚情報を制限し，動きの時間的・空間的特徴の知覚の成立にどの程度の情報が必要かを検討することであった．その結果，点光源の減少は運動の知覚を困難にすることが示唆された．点光源の数は，内在する運動に関する情報と関連しているため，正答数や回答時間に影響を与えると考えられる．授業履修者は点光源の減少に伴い，時空間的情報の認識が減少するのに対して，競技経験者はどの点光源数においても運動経験や運動イメージを基に技の全体経過の中で時空間的情報の認識を補うことができると示唆された．

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1.光点表示を用いた視覚情報の制限による体操競技者の技認知の正確性に及ぼす影響（査読付）	共	2022年	トレーニング科学．34（4）：309-322.	五藤佳奈、廣光佑哉
2.体つくり運動の実施経験と意識調査（査読付）	共	2021年	健康・スポーツ科学　11(1)：1-7	五藤佳奈、中村永美子 本研究の目的は，体つくり運動に関して大学生の実施経験と意識調査を検討し，今後の授業展開の工夫に活かすことであった．その結果，本研究の対象者は体つくり運動についての認識率が非常に低かったが，授業を重ねると共に体つくり運動に関して理解が深まってきたことが見受けられた．また，体つくり運動の重要性は示されたが，問題点として理解が難しい点に多く意見が書き込まれたように，体つくり運動全般において，授業での内容の取扱いや指導方法に工夫を加えることで疑問点を解消していく必要があると考えられる．そのため，授業展開の工夫には，まず体つくり運動の目的や意義を理解させ，生徒の現状を把握した上で内容に取り組む必要があると考える．そして，実際に授業を構成し経験させることが重要であると考える．
3.心理的プレッシャー下でのダーツ課題におけるサイズ知覚とパフォーマンス結果（査読付）	共	2018年	体育学研究　64：441-455	田中美吏・柄木田健太・村山孝之・田中ゆふ・五藤佳奈 本研究ではダーツ課題を用いて，プレッシャーが課題遂行前における的のサイズ知覚に及ぼす影響を調べ，さらにはプレッシャー下での課題遂行前のサイズ知覚とパフォーマンス結果の関係を調べることを目的とした．さらに，プレッシャーが課題遂行後における的のサイズ知覚に及ぼす影響も調べ，プレッシャー下でのパフォーマンス結果と課題遂行後のサイズ知覚の関係を調べることも目的とした．主な結果として，課題遂行前のサイズ知覚に対するプレッシャーの影響は見られず，課題遂行前のサイズ知覚とその後のパフォーマンスの間にも関係は見られなかった．しかし，課題遂行後のサイズ知覚に関しては，プレッシャー下でパフォーマンスを低下させた実験参加者に限定的に的を小さく知覚することが明らかとなった．プレッシャー下での知覚の変化を規定する要因を仮説探索的に調べたところ，特性不安が高い実験参加者ほどプレッシャー下では課題遂行前に的を小さく知覚することも示された．
4.Psychological pressure distorts high jumpers' perception of the height of the bar.（査読付）	共	2018年	Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 3 (2), 29. doi: 10.3390/jfmk3020029	Tanaka, Y., Sasaki, J., Karakida, K., Goto, K., Tanaka, Y. M., & Murayama, T. Athletes need to maintain optimal perception and action even when they are under pressure during sports competitions. A key finding of this study is that prior to executing motor skills in competitive situations, perceptions about the environment, such as spatial information, could be biased in the direction of increasing the difficulty of motor skills. This tendency would increase for athletes that experience increased state anxiety under pressure. It is suggested that the underlying mechanisms of this phenomenon should be examined from the perspective of cognition, emotion, and physiological states in future research.
5.女子体操競技選手における集団の心理的特性とスポーツ意識について-大学体操部とジュニアクラブを比較して-（査読付）	共	2016年10月	健康運動科学　6(1)：1-6	三井正也、五藤佳奈 女子体操選手を対象として集団の雰囲気作りが心理的特性とスポーツ意識に与える影響について検討した．その結果，大学生群がジュニア群よりも競技年数や競技力が高いことはこれまでの研究と同様であったが，キャプテンのリーダーシップが関与しているため協調性を高めている可能性が示された．
6.器械運動の授業における動感身体知に関する研究-前方倒立回転とびを教材として-（査読付）	共	2016年10月	健康運動科学　6(1)：7-21	三井正也、五藤佳奈、内田唯 器械運動授業における前方倒立回転とびを取り上げ「わかって・できる」授業を目指すため、動感に基づいた方法的運動系列を立案し，これを授業で実践した際に発生する動感について検討した．その結果，授業の前後で学生のできばえが有意に良い方向に変化し，実施された授業の有効性が示された．また，実施された授業において動感は受講学生の中に確かに存在し，その動感を変化させるため

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				に用いた指導者の動感に基づいて作成された授業プログラムは有効に機能し,その効果も大きいことが確認された.
7.Relationship between recognition of gymnastic skills and the excitability of the primary motor cortex(査読付)	共	2016年7月	Journal of SPORT & EXERCISE PSYCHOLOGY. 38: 63	Kana Goto, Hiroki Nakamoto, Shiro Mori. These results indicate that observation of easier techniques that were previously practiced excited their motor cortex, while no such motor cortex excitement occurred for the techniques that they had not practiced. Further, expert gymnasts may access the motor system in order to perceive accurately the gymnastic movement when they need to imagine the movement from limited information.
8.体操競技経験の有無がパフォーマンスの注視点や視線に及ぼす影響(査読付)	共	2012年7月	兵庫体育・スポーツ科学　21：35-39	五藤佳奈，樫塚正一，伊達萬里子 体操競技の平均台のパフォーマンス評価において，パフォーマンス評価者の体操競技経験の差がパフォーマンスの注視点や視線に及ぼす影響を検討した．実験参加者は，体操競技の映像を見ている時のアイマークを調べることで経験の差における視線を観察した．その結果，経験者は技の高さを判定するための基準となる腰の高さ付近に常に視線が停留しており，未経験者は全体的に下半身を注視している傾向があった．これらの結果が示すことは，経験者は腰の高さを中心に中心視と周辺視を働かせながら，パフォーマンスを見ていることが示唆された．
9.女子学生の健康度と生活習慣に関する調査	共	2012年3月	武庫川女子大学紀要　59：96-106	伊達萬里子・樫塚正一，北島見江，田嶋恭江，五藤佳奈，伊達幸博 本研究は，ストレスの生起が学生の目的意識やカリキュラムによって経年的に異なると予測し，健康度・生活習慣とどのような関係があるのかを明らかにするには学年間での比較が必要と考えた．健康度と生活習慣について，女子大学に所属する学生を対象とした調査結果から，学年ごとに異なる健康状態の差異が明らかとなった．高いストレス負荷は認知機能の差異によって生じることから，身体面へ相互的な作用を齎し，健康保持の阻害要因となる可能性があると考えられる．また，身体面の既往症や自覚症状などの健康危機による生理的反応も加わると重篤なストレス反応を生じさせるため，今後の学生生活に支障をきたす事が予測される．
10.Relationship between Peak VO2 and Subcutaneous Fat Thickness of the Thigh Measured by Ultrasonography(査読付)	共	2012年2月	Osaka City Med.J 58：51-58	Shigehiro TANAKA, Kana GOTO, Saho YAMAMOTO, Aya ARAI Our results suggest that increases in peak VO2 are reflected by decreases in subcutaneous fat yhickness in the frontal and lateral regions of the thigh, but not in decreases in that in both sides of the medial region of the thigh. In addition, subcutaneous fat thickness may indicate partial or segmental activation of the frontal and lateral regions of the legs, such as that obtained by cycling.
11.衣服着用が水銀血圧計及び自動血圧計による血圧測定値に及ぼす影響(査読付)	共	2011年3月	日本臨床スポーツ医学会　19(2) 347-352	田中繁宏，五藤佳奈，新井彩 血圧測定において，水銀血圧計及び児童血圧計による衣服着用時の測定結果の違いについて検討した．自動血圧計による血圧測定は，測定部位に2枚以上の衣服がない状態で測定するのが最も望ましいと考えられた．正常血圧の者がトレーナーまたはそれより薄い衣服を着用しての血圧測定では大きな影響を及ぼさないと考えられた．
12.競技スポーツにおける受傷経験がメンタルヘルスに及ぼす影響	共	2011年3月	武庫川女子大学紀要　58：77-86	伊達萬里子，柿本真弓，樫塚正一，五藤佳奈，北島見江，田嶋恭江，伊達幸博 本研究は受傷経験とメンタルヘルスとの関係について，精神的健康パターン診断検査を用いて心身に与えるストレス負荷の定量的評価とプロフィール化を行い，それらの分析結果からストレス負荷の低減を目的とした心理的対応策について検討する事を目的とした．その結果，体育会系の大学に所属する一回生を対象とした調査結果から，受傷に伴うストレスの生起や，男女の自己意識の差異が明らかとなった．
13.女子学生のストレスと健康状態に関する実態調査(査読付)	共	2010年12月	健康運動科学　1：7-20	伊達萬里子・樫塚正一・田嶋恭江・松本裕史・五藤佳奈・伊達幸博 情動的反応や属性的要因について，女子大学に所属する一回生を対象とした調査結果から，学科ごとに異なるストレス負荷の生起や,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				健康状態の差異が明らかとなった．認知機能の差異によって生じる高いストレス負荷は，身体面へ相互的な作用を促し，健康保持の阻害要因となる可能性があると考えられ，さらに健康危機による生理的反応も加わるとストレスの疲はい期となる重篤なストレス反応を生じさせることが予測される．
14.光点表示による情報量の制限が体操競技における技の認知に与える影響(査読付)	共	2010年12月	トレーニング科学 22(4)321-329	五藤佳奈、森司朗、中本浩揮、西薗秀嗣 体操競技の技を用いて呈示した光点の数を操作することによる視覚情報の制限が運動の認知にどのような影響をもたらすのかを検討した．その結果，全ての光点数において，熟練者は初級者よりも優れた正答率を示し，熟練者に関しては2ポイントという最も少ないポイントにおいても運動の全体像を認知できる可能性のあることが示唆された．また，運動表象の視点から検討した場合には，熟練者は力的表象が多く，初級者は視覚的・空間的表象が多いことが示された．このことから熟練者は，自らの正確な技の遂行のために，技に関する正確な視運動イメージを有している可能性が示唆された．
15.女子学生バレーボール選手(関西学生1部リーグ所属)における体組成と全身持久力の特徴(査読付)	共	2010年11月	健康運動科学 1：21-24	田中繁宏・五藤佳奈・保井俊英 大学バレーボール選手の体組成を検討した結果，バレーボール選手は一般学生に比べ最大酸素摂取量が高く，体脂肪率が低いことが立証された．
16.高校時代の競技スポーツにおける受傷経験が心理・社会的側面に及ぼす影響(査読付)	共	2009年12月	兵庫体育・スポーツ科学 18：21-30	伊達萬里子・伊達幸博・樫塚正一・五藤佳奈・北島見江・田嶋恭江 傷害と心理的・社会的傾向との関連性についてアンケート調査と精神的健康パターン診断検査などから検討した．その結果，受傷直後の自己意識では，悲観的感情と楽観的感情が混在する回答がみられた．また，傷害未経験者は傷害経験者や障害経験者よりも心理・社会的ストレスが有意に高い傾向を示していた．
17.スポーツ傷害における情動的反応の傾向ー性差に着目してー	共	2009年3月	武庫川女子大学紀要 57：109-125	伊達萬里子・伊達幸博・永戸久美・樫塚正一・田中繁宏・相澤徹・五藤佳奈・北島見江・田嶋恭江・柿本真弓 受傷時の情動的反応や属性的要因について，体育会系の大学に所属する一回生を対象とした調査結果から，傷害に伴う様々なストレスが生起することや，男女の自己意識の差異が明らかとなった．
18.集団凝集性と心理的競技能力の関連性について：大学女子ハンドボール選手の場合	共	2008年3月	武庫川女子大学紀要 56：77-85	樫塚正一・五藤佳奈・伊達萬里子・田嶋恭江 ハンドボール競技における集団凝集性の実態と心理的競技能力の実態を把握し，凝集力を高めるための要因について検討した．その結果，集団凝集性を高める要因は，「親密さ」と「チームワーク」であり，心理的競技能力の因子である「自信」と「作戦能力」が集団凝集性と関連していることが競技パフォーマンスに影響している事が立証された．
19.女子学生のスポーツ傷害に関する心理的・属性的要因の検討	共	2008年3月	武庫川女子大学紀要 56：88-96	伊達萬里子・伊達幸博・永戸久美・樫塚正一・田中繁宏・相澤徹・五藤佳奈・北島見江・田嶋恭江・村川増代・三村寛一 受傷学生の心理的問題に対処することを目的として，M女子大学健康・スポーツ科学科に所属する一回生を対象とした調査結果から，傷害後に様々なストレスが生起していることが判明した．受傷直前の精神状態，受傷直後の精神状態，リハビリ期間中の精神状態では高い心理的ストレスを受けており，治癒過程にも相互的な作用を促し，回復に向けたリハビリの危険因子となる可能性があると考えられ，さらなるストレス反応を生じさせることが懸念されれう結果を示した．
20.心的特性と心理的競技能力に関する研究	共	2007年3月	武庫川女子大学紀要 55：141-148	五藤佳奈・樫塚正一・伊達萬里子・田嶋恭江 心的特性と心理的競技能力に関する実態を把握した結果，競技レベルやキャリアの違いから個々に必要とされる能力が異なるため，成績上位群・下位群共に心的特性と心理的競技能力に異なる傾向がみられた．
21.個人の認知的評価とプラシーボ反応との関連	共	2006年3月	武庫川女子大学紀要 55：133-140	伊達萬里子・伊達幸博・永戸久美・樫塚正一・北島見江・田嶋恭江・五藤佳奈・三村寛一 生理・心理学的見地からプラシーボ効果を検討した結果，ダミーであるステンレス装着時では，信頼性が高い群において自律神経系の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				機能亢進と運動機能の向上などの機序が働き，自然治癒の偶然的重なりではないことが明らかとなった.
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.第 1 回国際マスターズチームカップ報告.	共	2023年12月17日	第37回日本体操競技・器械運動学会. 於　国士館大学	市場俊之・篠原千代三・ クリューゲル・イェンツ・ 赤羽綾子・ 秋山怜子・ 小池悦子 ・ 五藤佳奈
2.体操選手の重心動揺―特性不安や競技レベルとの関係―	共	2018年10月	日本スポーツ心理学会第45回大会，名古屋	夏目侑香・五藤佳奈・田中美吏 本研究では，体操選手の重心動揺と特性不安の関係性について競技レベルも含めながら調べることを目的とした．その結果，両足立ちに比べて，片足立ちやとう立ちは体操競技の実運動に近い姿勢保持課題といえ，これらの課題を行う際の重心の遅い移動速度が，体操競技のスキルレベルの高さに繋がっていることが本研究では明らかとなった.
3.Effects of pressure on gaze behaviors and spatial perception in golf putting tasks.	共	2018年7月	The 8th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, @ Daugu, South Korea,	Murayama, T., Tanaka, Y., Tanaka, Y.M., and Goto, K. Excellent Poster Presentation Award受賞
4.Size perception and performance outcome in a dart-throwing task under psychological pressure.	共	2018年6月	North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity 2018 Conference, @ Denver Colorado, USA,	Tanaka, Y., Karakida, K., Murayama, T., Tanaka, Y.M., and Goto, K.
5.Disadvantageous height perception by high jumpers before the run under psychological pressure.	共	2017年7月	The 14th International Society of Sport Psychology World Congress of Sport Psychology, @ Sevilla, Spain,	Tanaka, Y., Sasaki, J., Karakida, K., Goto, K., Tanaka, Y. M., & Murayama, T.
6.Cognitive and neural mechanisms for perception of biological motion eliminated most kinematic information of gymnastics skills.	共	2017年7月	The 14th International Society of Sport Psychology World Congress of Sport Psychology, @ Sevilla, Spain,	Goto, K., & Tanaka, Y. This study aimed to examine the differences between expert gymnasts and novices on perception of biological motion eliminating kinematic information of body parts. Central nervous activity for perception of such biological motion was also investigated. We think that expert gymnasts perceive the visualize skills correctly facilitating mirror system in the brain to compensate for limited information on biological motion. It could be theorized that video recordings helped eliminate most kinematic information, and is more useful for observation learning for the expert athlete.
7.Relationship between recognition of gymnastic skills and the	共	2016年6月	North American Society for the Psychology of Sport and Physical	Kana Goto, Hiroki Nakamoto, Shiro Mori, The aim was to investigate relationship between recognition accuracy of gymnastic skills and the excitability of the primary motor cortex under limited visual information.These results indicate that observation of easier techniques that

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
excitability of the primary motor cortex			Activity @ Montreal	were previously practiced excited their motor cortex, while no such motor cortex excitement occurred for the techniques that they had not practiced. Further more, expert gymnasts may access the motor system in order to perceive accurately the gymnastic movement when they need to imagine the movement from limited information.
8. Influence of differences in gymnastic skills on the accuracy of the perception of gymnastic movements presented with limited visual information	共	2014年6月	North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity @ Minneapolis	Kana Goto, Hiroki Nakamoto, Shiro Mori, The results of this research showed that, compared to novices, experts had higher correct response and level of confidence, even when there were only a small number of point lights. Thus, the experts could accurately perceive the movement technique, even from a small amount of information, and they have high level of confidence because they possess large amounts of information. Moreover, experts frequently used a kinesthetic image, whereas novices frequently used a visual image as the reason for their selection of a movement. Therefore, it is possible that experts are able to supplement the movement and perceive the correct movement, even when there are only a small number of point lights, and it is highly likely that they possess high-quality kinesthetic images for the movements.
9. 女子学生の健康状態に関する実態とメンタルヘルスの傾向	共	2013年8月	日本体育学会第64回大会　於　立命館大学	北島見江・田嶋恭江・五藤佳奈・伊達萬里子 総合女子大学の1年生を対象として入学後の健康状態と，メンタルヘルスについて調査を実施し，新入生に対する健康支援の方向性を検討することを目的とした．その結果，学科ごとに異なった身体的・精神的ストレスの負荷量がみられた．このことから，心身のストレスの原因を究明することや、学科ごとに適応した健康支援の対応策の構築が必要と考えられた．
10. 女子学生のストレスと愁訴との関連について	共	2011年9月	日本体育学会第62回大会　於　鹿屋体育大学	伊達萬里子・樫塚正一・北島見江・田嶋恭江・五藤佳奈 総合女子大学の1年生を対象として，学部・学科別のストレス負荷と，生活習慣が関与する愁訴や疾患の傾向を分析し，得られた結果からその原因を明らかにするとともに個人の心身の健康を保持するための基礎資料を得ることを目的とした．その結果，個々の生活習慣は様々な身体疾患の危険因子である可能性が高いため，相互的な発症機序としてストレス反応を生じさせているのではないかと推察された．
11. スポーツ障害の経験とメンタルヘルスとの関連	共	2010年8月	日本体育学会第61回大会　於　中京大学	伊達萬里子・柿本真弓・樫塚正一・北島見江・田嶋恭江・五藤佳奈 スポーツ障害はリハビリテーション時の選手に心理的ストレス負荷をキタス事が先行研究では示唆されている．本研究は，受傷経験が選手のメンタルヘルスに与える影響を明らかにし，ソーシャルサポートのための基礎資料を構築することを目的とした．その結果，傷害に伴うストレスの生起や，男女の０意識の差異が明らかとなった．男子外傷経験者や障害経験者では身体面での高ストレスの影響による愁訴が認められた．また，女子の外傷・障害経験者は女性特有の身体的愁訴に顕著な差が認められたが，精神的愁訴は少ないことが判明した．
12. 体操競技におけるCenter of momnetの探索と熟達差の影響について	共	2010年8月	日本体育学会第61回大会　於　中京大学	五藤佳奈・森司朗・中本浩揮 体操競技においてもWalkingと同様のcenter of momentが存在するか，またその熟達度について検討した．その結果，体操競技の技を認知するには手首および大転子を中心に形成された4ポイントからなる交点が技の理解に重要な中心点になる可能性が示唆された．
13. Relationship between exercise capacity evaluated by ergometer and skinfold fat thichness measured by	共	2010年6月	European College of Sport Science(Turkey)	Tanaka Shigehiro,Goto Kana,Nakamichi Rio,Yashui Toshihide, Nakanishi Takumi,Date mariko,Kashizuka Shoichi Our results suggest that habits of routine walking or jogging may decrease the frontal region of skinfold fat thickness of thigh. Measurement of skinfold fat thickness of thing by ultrasonography may represent physical activity and may also effective for evaluating training.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ultrasonography				
14.Learning effect on each cerebral hemisphere of tasks performed by athletes using the non-dominant hand	共	2010年6月	European College of Sport Science(Turkey)	Goto Kana,Tanaka Shigehiro In this study, stimulation to the brain in the trial of the non-handedness was not able to be said to have been effective for the improvement of the learning effect. As for it, that it was processed in a brain was proved the analytic logic while promoting memory and decisions.
15.スポーツ活動における受傷時の情動的反応の傾向について	共	2009年8月	日本体育学会第60回大会　於　広島大学	伊達萬里子・柿本真弓・樫塚正一・田中繁宏・相澤徹・五藤佳奈・北島見江・田嶋恭江 スポーツ障害に関わる問題は数多く報告されており，その中でも受傷によって選手の心理面に多大な負担を与え，重篤なストレス負荷をキタスことが示唆されている．そこで，本研究は受傷が選手の心理面へ与える影響を明らかにし，早期治癒を図るための基礎資料を構築することを目的とした．その結果，男子の外傷経験者と慢性障害経験者の精神状態とリハビリテーションの自己意識では，５％水準で有意差が認められた．男子選手ではリハビリテーション中の自己意識について慢性障害経験者は特に覚えていないとした回答が多く，外傷経験者の多くは後悔や焦りなどのストレスを感じていたという結果となった．
16.Point-lightにおける遮蔽条件の差異が運動の認知に与える影響	共	2009年8月	日本体育学会第60回大会　於　広島大学	五藤佳奈・森司朗・中本浩揮・樫塚正一 体操競技の技を行うPoint-light刺激を用い，さらに身体の関節部位に付けた光点源条件において，ヒトはどのような情報を用いて運動を認知しているのか検討したところ，熟練度に関係なく下半身から遮蔽していく刺激による正答率の高いことが示唆された．したがって，体操競技の技の認知に関しては，下半身よりも上半身の動きの認知に重要な情報であることが示唆された．
17.運動の認知における情報量の制限が運動の認知に与える影響	共	2008年11月	日本スポーツ心理学会第35回大会　於　中京大学	五藤佳奈・森司朗・中本浩揮・樫塚正一 実際に動きの経験のある熟練者は経験のない初級者に比べて1ポイントでも動きが認知できるのか，また1ポイントで動きを認知する際に重要である部位はどこであるのかを検討した結果，1ポイントでも熟練者は初級者と比較し，低下はするが高い水準で運動を認知することが可能であった．また，熟練者は肘を注視し，初級者は足首を注視する傾向にあった．
18.スポーツ傷害が心身に及ぼす影響	共	2008年8月	日本体育学会第59回大会　於　早稲田大学	伊達萬里子・樫塚正一・五藤佳奈・北島見江・田嶋恭江 受傷学生の心理的問題に対処することを目的として，M女子大学健康・スポーツ科学科に所属する一回生を対象とした調査結果から，傷害後に様々なストレスが生起していることが判明した．受傷直前の精神状態，受傷直後の精神状態，リハビリ期間中の精神状態では高い心理的ストレスを受けており，治癒過程にも相互的な作用を促し，回復に向けたリハビリの危険因子となる可能性があると考えられ，さらなるストレス反応を生じさせることが懸念されれう結果を示した．
19.Point-light Displaysによる運動の認知（第二報）	共	2007年11月	日本スポーツ心理学会第34回大会　於　東京工業大学	五藤佳奈・西薗秀嗣・樫塚正一 呈示する点光源の数を操作することで知覚情報を制限し，技の時空間的映像における知覚の成立にどの程度の情報が必要か，また習熟レベルに伴う運動表象の変化を検討した結果，点光源の増減は，運動リズムや筋感覚的内的イメージに関する情報と関連しているため，正答率に影響を与えている．また，競技経験者は身体の局面や力動分節等を明確に捉えることができる為，習熟レベルの高さは内的な感覚受容器を経ることにより形成される力的表象の表出に反映される．
20.個人の認知的評価とプラシーボ反応との関連	共	2007年9月	日本体育学会第58回大会　於　神戸大学	伊達萬里子・樫塚正一・北島見江・田嶋恭江・五藤佳奈 生理・心理学的見地からプラシーボ効果を検討した結果，ダミーであるステンレス装着時では，信頼性が高い群において自律神経系の機能亢進と運動機能の向上などの機序が働き，自然治癒の偶然的重なりではないことが明らかとなった．
21.Point-light Displaysによる運動	共	2006年11月	日本スポーツ心理学会33回大会　於	五藤佳奈・森司朗・中本浩揮・西薗秀嗣 呈示する点光源の数を操作することで知覚情報を制限し，体操競技

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の認知			沖縄県男女共同参画センター	の技の時間的・空間的特徴について知覚の成立にどの程度の情報が必要か，またこのような技の知覚には経験による知識が影響すると考えられることから，情報制限下での知覚が経験に影響を与えるかについて検討した．その結果，点光源の減少は運動の知覚を困難にさせる．技を認知するには最小で4つの身体関節部位の相対的な動きの情報が必要である．熟練者は運動経験や運動イメージを基に技の全体経過の中で，時空間的情報の認識を補うことができる．
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.第53回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会		2020年9月		団体総合準優勝（群馬県） 個人総合９位 [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
2.第52回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会		2019年8月		団体総合優勝（福井県） 個人総合９位 [表彰]兵庫県スポーツ優秀選手賞（マスターズ）2020.2 [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
3.第51回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会		2018年8月		団体総合優勝（福岡県） [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
4.第50回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会		2017年10月		団体総合優勝（三重県） ※全日本マスターズ体操競技選手権大会　名称変更 [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
5.全日本マスターズ体操競技選手権大会		2016年9月		団体総合優勝（東京都） 個人総合４位 ※全日本シニア体操競技選手権大会　名称変更 [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
6.第48回全日本シニア体操競技選手権大会		2015年9月		団体総合優勝（福井県） [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
7.第47回全日本シニア体操競技選手権大会		2014年9月		（2部）団体総合優勝（福岡県） ※全日本体操競技社会人大会　名称変更 [表彰]西宮市民体育賞「くすのき」（優秀団体賞）（優秀選手賞）
8.全日本体操競技社会人大会		2013年9月		（2部）団体総合優勝（三重県）
9.全日本体操競技社会人大会		2012年9月		（2部）団体総合優勝（神奈川県）
10.全日本体操競技社会人大会		2011年9月		（2部）団体総合優勝（山形県）
11.全日本体操競技社会人大会		2010年9月		（2部）団体総合2位　個人総合6位（福岡県） ＜種目別＞跳馬・３位
12.全日本体操競技社会人大会		2009年9月		（2部）個人総合3位（福井県）
13.全日本体操競技社会人大会		2008年9月		（2部）個人総合優勝（福井県） ＜種目別＞跳馬・準優勝、段違い平行棒・優勝、平均台・準優勝、ゆか・優勝
14.全日本体操競技社会人大会		2007年9月		（2部）個人総合5位（茨城県）
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.＜共同研究＞　関西大学　総合情報学部田中研究室にて		2015年5月～現在		GPSPORTSのシステムを用いて，アメリカンフットボールチームのデータ収集・解析を行っている．現在は，選手にGPSとHRを付けて選手の移動軌跡とトレーニング強度を測定している．今後は認知的トレーニングの開発や，戦術サポートに関するソフトウェア/アプリを開発する予定である． 共同研究者：田中成典，山本雄平，寺口敏生，五藤佳奈，井上晴可
2.2014環太平洋選手権大会における審判業務の報告について	単	2014年	日本体操協会	公益社団法人日本体操協会審判部の研修会にて，2014環太平洋選手権大会(カナダ)における審判業務・ならびに日本選手団との係わり方や他国の最新システムの導入についてまとめて報告を行った．
3.第6回東アジア競技大会における審判業務	単	2013年	日本体操協会	公益社団法人日本体操協会審判部の研修会にて，第6回東アジア競技大会(中国・天津)における審判業務・ならびに日本選手団との係わ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
の報告について				り方や他国の最新システムの導入についてまとめて報告を行った.
６．研究費の取得状況				
1.科学研究費助成事業　基盤研究（A）　新規	共	2018年4月	科学研究費補助金	心理的プレッシャー下における身体運動ー力動的知覚とのインタラクション
2.科学研究費助成事業　基盤研究（A）　新規	共	2018年4月	科学研究費補助金	Quiet Eyeはプレッシャー下における知覚ー運動系の崩壊をいかに抑制するか？
3.科学研究費助成事業　若手研究（B）　新規	単	2016年～2021年	科学研究費補助金・若手研究（B）	体操競技者の技認知における脳内および視覚メカニズムの解明
4.科学研究費助成事業　若手研究（B）　新規	単	2013年～2014年	科学研究費補助金・若手研究（B）	ミラーシステムによる欠損した身体性情報の補完メカニズムの解明
5.平成22年度　兵庫体育・スポーツ科学学会　学術研究助成	共	2010年3月	兵庫体育・スポーツ科学学会	女子体操競技における熟達差によるパフォーマンス中の視覚探索について

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2018年4月～2023年3月	近畿体操協会　ブロック審判委員
2.2017年4月～2023年3月	公益財団法人　日本体操協会　体操競技女子審判部　ブロック部員
3.2016年4月～現在	西宮市体操協会　理事
4.2015年4月～現在	兵庫県体操協会　競技委員会　審判部部員
5.2013年4月～2015年3月	公益財団法人　日本体操協会　体操競技女子審判部　部員
6.2009年8月～現在	九州体育・スポーツ学会
7.2007年8月～現在	兵庫体育・スポーツ科学学会
8.2007年8月～現在	日本体育学会
9.2006年11月～2023年4月	日本臨床心理身体運動学会
10.2006年8月～現在	日本スポーツ心理学会